自治功労者などを表彰

式典上で70人と消防団に

市制施行を記念して、市長は、一日の記念式上で自治功労者を表彰し、消防団の各分団に感謝状を贈りました。

自治功労表彰を受けた人たちは、十年以上にわたって町議会議員や自治会長、各種の委員などを勤め、今まで豊栄町の行政に貢献してきた人たちです。また、消防団の分団は、地震や風水害、火災など幾多の災害にさいし、自己の危険も顧みず、身をていして災害の処理に活躍したことによるものです。

なお、自治功労表彰と感謝状を贈られたのは、次の七十人と十分団です。

町議会議員
中川精治（上大口）、小池市太郎（内島見）　小川兵平（早通）　風間一夫（下嘉山）　斉藤喜蔵（平林）　川瀬俊雄（下土地亀）　斉藤徳太郎（高森新田）　竹内甲（下大谷内）
(元)長谷川五夫（上嘉山）
(元)佐藤富蔵（横土居）
(元)須藤幸一（下早通）

教育委員会委員
(元)柄沢忠衛（下黒山）

選挙管理委員会委員
(元)渡辺冠（梅ノ町）
(元)小野勇三郎（十二）

固定資産評価審査委員
宗村勇次（中黒山）
松田仁一郎（鳥屋）

国民健康保険運営協議会委員
小熊喜三郎（森下）　富田伸（白新町）　田中勝（上土地亀）　池田和美（上大月）

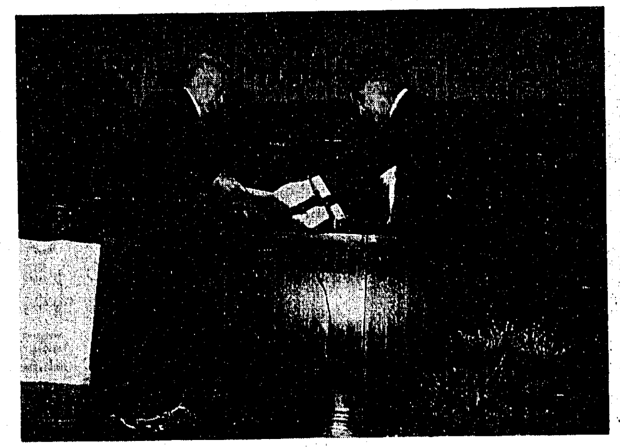
農業委員会委員
角田恪太郎（正尺）　後藤清一（内島見）　芳賀銀次郎（上大月）　(元)笹川勢三郎（下黒山）　(元)服部重松（笹山）　(元)川崎義松（内島見）　(元)三浦錬太郎（内島見）　(元)江村徳一（大迎）　(元)高橋政治（長戸呂）　(元)五十嵐富太郎（大瀬柳）　(元)岩橋七蔵（森下）　(元)小熊喜三郎（森下）　(元)嘉藤嘉雄（長戸）

民生委員
渡山孝寿（大迎）　斎藤時雄（十二）　川崎徳二（笠柳）　木村文泰（尾山）　三浦タキ（笹山）　頓所惣松（横土居）　柄沢チヨ（下黒山）　斎藤イネ（下他門）　佐藤長四郎（梅ノ町）　加藤章司（上町）
大倉正太郎（下土地亀）
清水智円（浦木）　佐藤清蔵（内沼）　長場岑次（長場）　小池栄助（内島見）
橋本ヒロ（栄町）　小柳藤太（中大口）　吉田国士（相生町）　坂井聖一（上大月）　渡辺一郎（浦ノ入）
(元)熊倉栄治（村新田）
(元)高野テイ（山飯野）
(元)山倉一成（大瀬柳）
(元)市島光枝（木崎）
(元)柏木政衛（早通）
(元)菅井龍蔵（中黒山）
(元)堀杉治（大月）

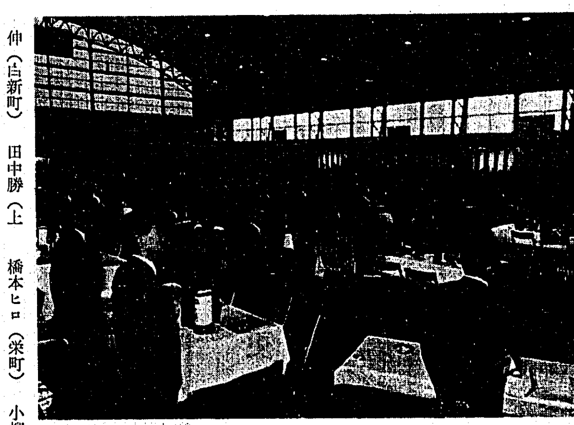
自治会長
宇山惣次郎（長戸）　山崎和雄（栄町）　佐藤長四郎（梅ノ町）　江村徳一（大迎）　斉藤竹四郎（平林）
星野昌一（太子堂）
(元)高橋清（十二）
(元)曽我昌次（山飯野）
(元)常木静吾（中大口）

農家組合長
高橋勝衛（大久保）　乙川石太郎（森下）　長場都太（長場）　坂井作太郎（長戸）

消防団
第一分団　第二分団　第三分団　第四分団　第五分団　第六分団　第七分団　第八分団　第九分団　第十分団



自治功労者の表彰式



式典は全員の国歌斉唱で幕をきりました

豊栄市のあゆみ

むかし⇔いま

昭和三十年春、豊栄町誕生以来十五年、ここに豊栄市として出発しました。

この間、台風・水害などと、暗い話題が多かったようです。しかし、白新線の全通、豊栄高校の開校、早通団地の建設等、明るい話題も少なくはありませんでした。

市制施行を機会に、豊栄市の古い時代のことや、豊栄町十五年の歩み、さらには、現在の姿について、市勢要覧から抜粋してみました。過去、現在、将来などについて、皆さんの参考になれば幸いです。

おいたち

豊栄市の歴史は、岡方台丘（高森薬師山）や鳥屋、法花鳥屋、木崎方面の砂丘地帯などから石器や縄文・弥生式土器が出土することなどから、相当古い時代から開発されたことが、うかがわれます。また、現住する私たちの直接の先祖が居住するようになったのは、四百年から五百年前ころからと推測されています。

寛治三年（一〇八九年）の古絵図によると、この地方一帯のほとんどは、海になっています。

阿賀野川をはじめとする数河川の運ぶ土砂の沖積によって次第にひらけ、鎌倉時代には、高森薬師堂を中心に、相当繁栄したもようです。その後室町時代になって、戦乱と阿賀野川のはん濫、あるいは河状の変化によって次第に衰微し、慶長三年（一五九八年）溝口新発田藩主の入封当時、飯野村・長戸呂村・太子堂村・高森村を合わせて九十一石でした。当時、葛塚郷はほとんどが沼沢の地でした。

その後、溝口侯が治水開田を奨励して阿賀野川の瀬替え築堤を行なった結果、元禄年間には岡方郷で、戸数約四百戸を数えたといわれます。また元禄四年（一六九一年）における独立集落は、切尾・浦ノ入・居山・内島見・山飯野・堀田の記録があります。このころ、福島潟周辺すなわち後の葛塚郷へは、開墾のために来往する者はありましたが、定住する者はありませんでした。

享保十五年（一七三〇年）に阿賀野川を松ヶ崎で、日本海へ切り落したことにより、福島潟を残して、一帯が干上がりました。このため、急激に村落が形成され、葛塚新田や太田興野、太田上興野、嘉山の四集落で、約百戸を数えました。

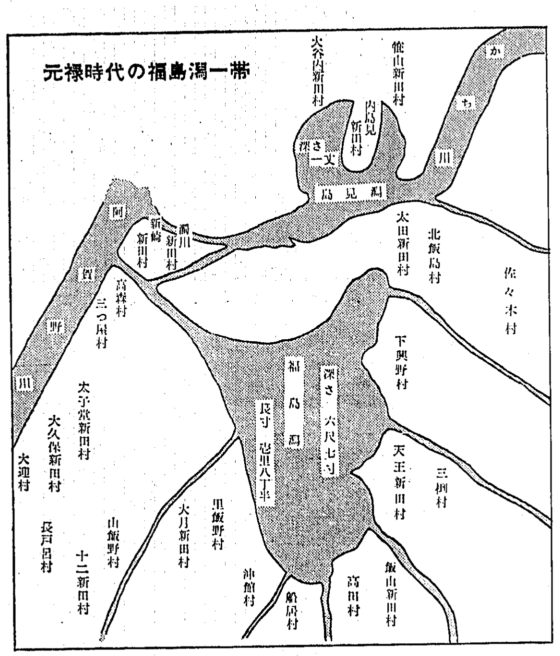
宝暦四年（一七五四年）葛塚郷は、幕府の直領に属し、水原代官所の所管となりました。葛塚の名主遠藤七郎左ェ門宗寿、保寿の父子は、地方住民のためにと、市場の開設をはかり、溝口侯に請願しました、しかし、新発田・水原の激しい反対にあったため、直接江戸幕府に請願して、宝暦十一年（一七六一年）に許可を得ました。このことが原因となって、葛塚の市街地ができてきました。天保（一八三〇年～一八四四年）のころには、商工業が盛んになって、当時亀田に集まる三条・白根・小須戸の物産のうち約七割は、葛塚商人にて新発田村上方面へ取り次がれたといいます。

明治維新を経て、明治二年に越後府が置かれ、水原県に属し同四年に新潟県となり、大小区制のもとに葛塚・岡方長浦の区域が二十二大区に、木崎の区域が二十三大区に属しました。

明治十一年戸長役場制度を経て、同二十一年に町村制の施行となり、その後別掲の町村合併の変遷を経て、昭和三十年三月、豊栄町の発足となりました。

この間、木崎は東北路への往還としてにぎわいました。また、葛塚も新潟から船便（蒸気船）を利用して、新発田・村上を経て東北路への要地として、葛塚の市街地も栄えました。しかし、大正三年羽越線の開通に伴い、約四十年間にわたって沈滞し、不振を続けました。

このような変遷を経て、昭和二十七年、白新線の一部開通、次いで三十一年に全通なり、新しい時代を迎えることになりました。

市名「豊栄」の由来

昔、新発田市や豊栄市一帯を豊田荘と呼び、東大寺領に属したことがありました。昭和三十年、葛塚・木崎・岡方の三町村が合併するとき、豊田の豊をとり、更に栄えることに願いをこめて、豊栄町と名付けました。